

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 21 章 20～38 節>

1 (5-19 の復習) 「いつそれは起こるのか」が重要なのではない。

見事な神殿に見とれていた人たちに、イエス様はその神殿が完全に崩壊する日の来ることを告げられました。人々は「それはいつ起こるのか」を問いましたが、イエス様は重要なことはそれではないと示され、「忍耐によって、命を勝ち取りなさい」(19)と言われたのです。どういふことでしょうか？ さらにその意味を追います。

2 (20-24) エルサレムが大事な時代は終わった。

ルカ福音書が記されたのは紀元 80 年頃とされ、ローマ軍による 70 年のエルサレム神殿破壊の後であり、これは事後預言と呼ばれる記事です。つまり、ルカも同時代の信仰者たちも、イエス様が預言されたことが起こったことを知った上で記している記事です。ですから、大事なことは預言の的中ではなく、そこから彼らが何を聞き取ったかです。それは、エルサレムが大事な時代は終わった、「異邦人の時代に入ったのであり、それはまだ完了していない」(24)ということです。

3 (25-33) 人の子、すなわちイエス・キリストが大事な時代に移行。

これまで記されていた同じ人間による戦争や暴動(9, 20, 24)とは全く異なる天変地異が起こることが告げられています。「終末」の到来です。しかし、強調点は、起こり始めても、「すべてのことが起こるまでは、この時代は決して滅びない」(32)こと、そして「そのとき、人の子(イエス・キリスト)が来られる」(37)ということです。その描写は私たち人間に喜びをもたらす表現で満ちています(27, 28: 大いなる力、栄光、解放の時が近い)。イエス様の到来、死、復活、昇天、再到来に、私たちは神様の壮大な救済史を見なければならぬし、見るべきなのです。「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない」(33)。

4 (34-36) 起こったことから考えなさい、どう生きるべきかを。

最後にイエス様が言われたことは、以上のことから出て来る結論、すなわち、「この世の生活に埋没してしまい、神を忘れ、身を持ち崩さないように」(34)ということでした。人間がそのようになり、考えられない非道を尽くす歴史が繰り返されてきました。人生が死で全てが終わるのではない、「(死の後に用意した)命を勝ち取りなさい」(19)と呼びかけられたことを知った者の生き方は変わるはずで